

日本人建築家夫婦、アメリカ東海岸でがんばる 第五回

アメリカで日本庭園をつくる。

河井容子 with 栗本貴哉

アメリカで日本庭園をデザイン

ペンギン事務所を立ち上げた時、自分達の強みはやはり日本人であることだろう、と考えていた。外国人であることは、デメリットであることが多いのだが、日本人であること、日本の建築、空間、そして日本庭園を知っていることは、自分達の強みであると今更ながら思う。

私（栗本）は、大学では造園学研究室に所属していた。ここだけの話なのだが、日本庭園の勉強は、社会人になってからのほうがはるかに多い。当たり前であるが、社会人になってからの時間のほうがはるかに長いわけだし、そもそも、庭園の“味わい”というものは、二十歳そこそこの若者に実感せよ、というのが難しかったのかも知れない。

それでも学生の頃、京都の庭園を自転車をこいで見て回ったことが、今ごろになって、ビジネスのための大変貴重な糧になっている。人生わからないものである。

さて、アメリカの東海岸で日本庭園をデザインする機会なんてあるのだろうか、と思う方もいるだろう。数は少ないが、意外と頼まれるものである。なんと言っても、禅（ZEN）という言葉が、アメリカで既に市民権を得ているせいか、禅の庭が好きなアメリカ人は結構いる。

そこで我々ペンギン事務所としては、「なんちゃって日本」ではない庭や建築をデザインできますよ、と、営業活動をするわけである。



我々のデザインした日本庭園

アメリカで日本庭園をつくることの難しさ

アメリカで日本庭園をつくるうえでの第一関門は、施工する職人を見つけるのが大変、である。アメリカの造園業者はまさにピンからキリまでいる。さらに日本庭園を見たことのない業者がほとんどである。だからまず、日本庭園とはどういったものか、という教育を彼らにする必要があるのだ。例えば苔は大事なグランドカバーで雑草ではない、とか。要するに、彼らの持っている固定観念を壊すことから始まるのである。そういう意味で、固定観念にとらわれない、新しいものにチャレンジする柔軟な思考の人に、自然と施工を頼むようになってきた。

第二に、庭を維持できる職人を見つけるのが大変、である。これは第一関門とよく似ているが、場合によっては維持のほうが施工より、はるかに大変である。松の剪定なんて、いちいち教えてもらえないからである。日本での庭の松の剪定は、全く職人の芸術的な匠の技である。センスが必要である。



石組みの打合せ。ひげのおじさん、ユンボの操作が非常に上手かった。

そのせいもあって、残念ながら今までのところ、日本庭園を頼まれても、難しい剪定の必要な植栽デザインはしないようにしている。刈り込み程度なら、簡単な指示書をつければしてくれるが、「すかし」のような剪定は指示のしようがないからだ。

第三は、鹿(!)を挙げたい。鹿さんは沢山いる。何でも食べる。冬場の食べ物のない時期、植物の芽をくちゃくちゃ食べてしまう。若いツツジも石楠花も、ひどい時には丸裸にされる。一応鹿の食べない植物もあるが、種類が限られてしまうのでデザインに幅が出ない。鹿対策に鹿よけフェンスを設置することもあるが、最低2.4メートルの高さが必要である。フェンスがなければ、冬の前に鹿よけスプレーを散布しておく必要がある。

ニューヨーク近郊の日本庭園

ニューヨーク市のブルックリン植物園に、池泉回遊式の日本庭園がある。なぜか厳島神社のような鳥居が池の立っている。1915年、造園家塩田武雄が手がけたとされている。この庭が、ニューヨーク近郊にする者にとって一番馴染みのある日本庭園だろう。

ニューヨーク市から30分ほど北上したところに、ロックフェラー財団の持つ日本庭園がある。1908年に最初の日本庭園がジョン D. ロックフェラー氏の家につくられた。明らかに竜安寺の石庭を意識した枯山水の庭、池泉回遊式の庭、そして茶庭がある。

ところで数十年前には、ニューヨーク近郊にも、現在よりも多くの日本庭園が存在したらしい。1950年代に鈴木大拙がニューヨークを拠点にして、禅の思想を広めた影響なのだろうか。アメリカのモダンランドスケープのパイオニアの一人として知られたジェームス ローズも、深く禅の影響を受け、それを自分のデザインに反映させていたと言われている。

残念ながら、それら多くの日本庭園は廃れてしまったようである。個人庭園は特にその傾向が強い。とかく日本庭園の維持には費用がかかる。もし日本庭園に興味のない者が持ち主になれば、日本庭園があっても有難く思わないのは仕方のないことである。

しかしながら昨今、アメリカでもヨガやヒーリングといったことが注目されている。それにとともに禅の庭を癒しの庭に見立てる傾向が出てきたように思われる。心の健康のための空間づくりに寄与したい我々ペンギン事務所は、これからますます頑張らないといけないところである。(T)

ペンギン・エンヴァイロンメンタル・デザイン： 米国コネチカット州
に本拠地をおく、建築とランドスケープの設計事務所。河井容子と栗本
貴哉との共同主宰。一級建築士事務所（大阪府登録）。

本文の著作権は、Penguin Environmental Design L.L.C.に属し、個人使用以外のコピー、配布を禁ずる。本文内容についての問い合わせは、
info@PEDarch.com まで。